

春日井市消防署

愛知県春日井市

設計・監理／山下設計

施工／丸彦渡辺・中山 特定建設工事共同企業体



南側外観 旧国道19号(県道内津勝川線)より施設を望む

確かな建築技術と、春日井らしさを重ねた安全・安心のシンボル

春日井市消防本部は、発足以来消防機能の充実や強化を図ってきたものの、基幹施設となる消防署は築50年と老朽化が著しく消防・防災の拠点としての性能不足が懸念されることから、消防団詰所と合わせて旧国道19号(県道内津勝川線)沿線に新築移転を行うこととなった。

施設配置は、旧国道19号に面した150m×65mの三角形敷地に対し、消防庁舎棟(4階建て)、訓練棟(5階建て)、倉庫棟(3階建て)、消防団詰所(2階建て)の4施設を、①緊急車両の迅速な出動、②充実した訓練スペースの確保、③有事における消防団詰所との連携、の3つのメリットを生み出すように、東側から消防庁舎棟、訓練棟・倉庫棟、訓練スペース、消防団詰所の順に配置している。消防庁舎棟の2階屋上からは、訓練・倉庫棟を活用したダイナミックな消防訓練の様子を見学できる。消防庁舎棟は、1階車庫の上部に執務諸室を

配置する積層型の施設構成を踏まえ、14.0mのPC緊張RC造(以下PRC)梁を採用することで、施設全体に高い耐震性とフレキシビリティを確保した。平面計画は消防・車庫・来署者エリアの明確なゾーニングに加え、1階出動準備室へつながる中央階段が、各階からの出動動線を最短化している。

外観は、車庫の間口を確保するために用いた扁平柱(1,400mm×1,000mm)と梁同様に緊張を施した、PRC底(厚み300mm)が門型を形成する端正なファサードとした。この外観的特徴を踏まえ、書道家小野道風生誕の地と呼ばれる「書のまち春日井」にちなみ、ホワイト+グレーのツートンカラーによる色彩計画とした。消防らしい赤色をあえて使用しないことで、消防車両が映える脇役のデザインに徹している。

内部インテリアは、消火・救助に向かう消防士の緊張を和らげ、冷静沈着な消防活動を促す青色系カラーの出動動線(中央階段)とするほか、職・住一体の施設であることを踏

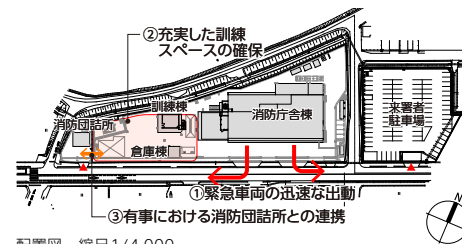
まえリラックス効果を与えるボタニカルな色彩により生活空間を演出している。

消防・防災の拠点としての性能を高める確かな建築技術に、春日井らしさや消防職員への尊敬と敬意を重ね合わせることで「ここにしかない安全・安心のシンボル」となることを目指した。

(田村 翔/山下設計)



南東側鳥瞰



配置図 縮尺1/4,000

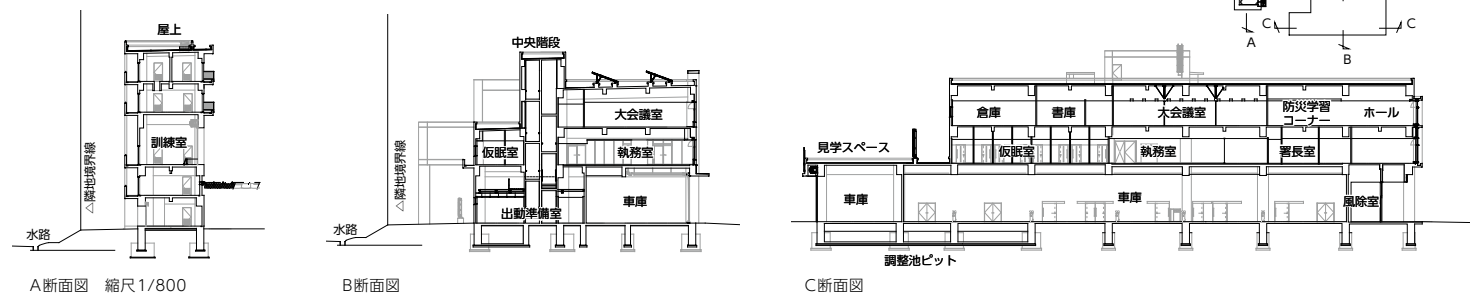
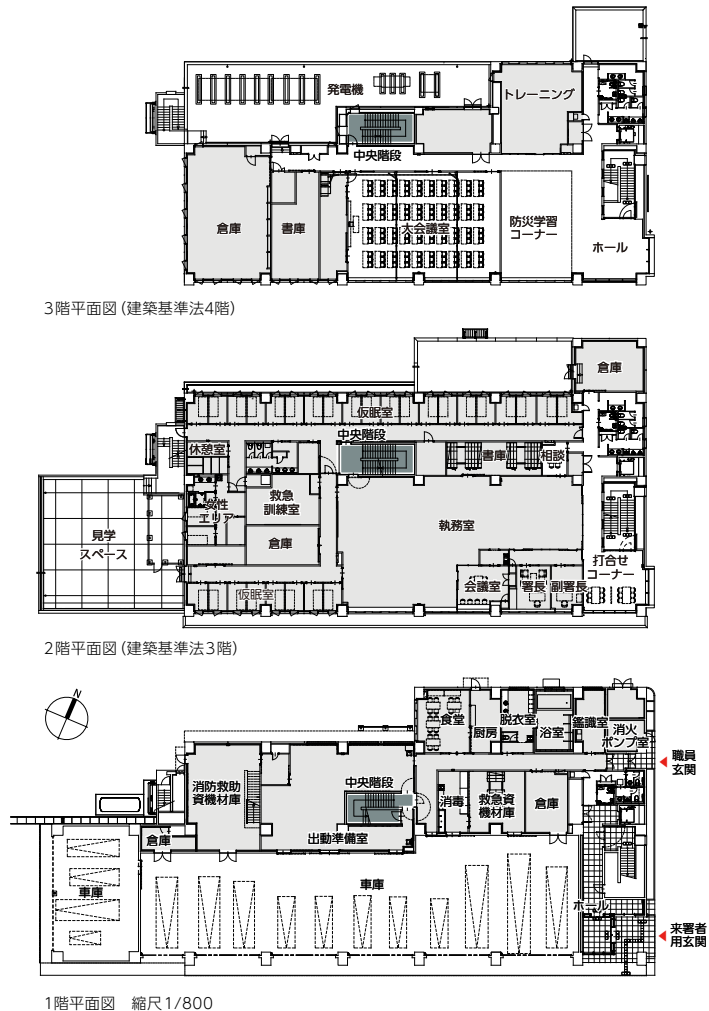
旧国道19号との接道条件を活かし3つのメリットを生み出す施設配置



消防庁舎 南東側外観



消防訓練の様子(左:倉庫棟 右:訓練棟)



施工計画

建設地は県道沿いで終日交通量が大変多く、かつ隣の学校へ通うこともたちの朝夕の通学路ともなっていたため、近隣住民、第三者災害への安全対策を行った。また、県道に沿って細長い三角地の敷地のため、クレーン車および資材置場の配置計画や車両の搬出入を考慮し仮設計画を実施した。当消防署は、メインの消防庁舎棟のほか、訓練棟・倉庫棟からなる3棟構成であり、また、消防団詰所が敷地に隣接している。消防庁舎棟の施工に際して、鉄筋コンクリート造で大梁は現場打ちPC工法、スラブは中空スラブ工法が採用され、専門業者と緊密な打ち合わせを重ね躯体精度に注力した。特に現場打ちPCは、鉄筋との納まりが厳しく、柱・

梁接合部は詳細図で検討し、設置後の現地確認を全箇所実施して品質を確保した。訓練棟・倉庫棟の工事着手前には県内の既存消防署訓練施設を見学してまわり、仕様や現況の状態を把握し、新設する施設の細かい寸法、位置決め等が最適となるように春日井市消防本部と協議・確認を繰り返しながら施工した。本施設は、今後、春日井市民の生命と財産

を守る新たな消防・防災の拠点として位置づけられる。このような重要施設の建設事業に携われたことを大変誇りに思っている。

(加藤茂樹/丸彦渡辺建設)

加藤 茂樹……かとう しげき
1976年愛知県生まれ。1998年丸彦渡辺建設入社。現在、同社名古屋支店工事部建築グループ課長



(写真提供:丸彦渡辺建設)



左上/防災学習コーナー 右上/執務室 左下/仮眠室 右下/大会議室



春日井市消防署 データ

所在地 愛知県春日井市北城町3-2-2
主要用途 消防庁舎、消防団詰所
建築主 春日井市
設計・監理 山下設計
担当/総括:佐藤雅彦 建築:田村 翔 構造:園原 紀之 設備:関 紘彰、兼松裕之 積算:岩田清逸
工事監理:人見立彦
施工
建築 丸彦渡辺・中山 特定建設工事共同企業体
丸彦渡辺建設
担当/現場代理人・監理技術者:加藤茂樹
建築:田中幸夫、上嶋弘一、野上裕志、正田 隆、篠田 聡、大野尚登、三浦雄平 土木:風上大典
中山建設
担当/主任技術者:北折 篤

電気 中央電設・春日井 特定建設工事共同企業体
中央電設 担当/磯田俊光
春日井電気 担当/與語富行
空調・衛生 丸水設備 担当/青柳秀明、鈴木沙奈
設計期間 2021年4月~2022年1月
工事期間 2022年7月~2024年3月
[建築概要]
■消防庁舎
敷地面積 1,818.34㎡
建築面積 4,485.98㎡
延床面積 4,428.37㎡
建ぺい率 33.44% (許容60%)
容積率 67.95% (許容200%)
構造規模 RC造 地上4階、棟屋1階
最高高さ 20.565m (訓練棟)
軒高 19.465m (訓練棟)
階高 4.1m (基準階)
天井高さ 2.7m
主なスパン 8.4m×14.0m
■消防団詰所
敷地面積 294.38㎡
建築面積 64.97㎡
延床面積 128.00㎡
建ぺい率 22.07% (許容60%)
容積率 34.78% (許容200%)
構造規模 S造 地上2階
階高 3.8m (基準階)
天井高さ 2.6m
■共通
道路幅員 12.555m (南側道路:県道内津勝川線)
駐車台数 93台
地域地区 都市計画区域内、市街化調整区域、最大規模降雨による洪水浸水想定区域
[設備概要]
電気設備 受電方式/普通高圧1回線受電475kVA 変圧

器容量/3φ3W6.6kV60Hz 予備電源/ディーゼル式、非常用発電設備150kVA
空調設備 空調方式/個別空調方式:空冷HPエアコン 熱源/電気式
衛生設備 給水/受水槽+加圧給水ポンプ方式 給湯/局所方式(ガス、電気) 排水/浄化槽方式
防災設備 消火/屋内消火栓+移動式粉末消火設備 排煙/自然排煙方式 その他/標準形機械室レスエレベーター
昇降機 標準形機械室レスエレベーター
[主な外部仕上げ]
屋根 合成高分子系塩ビシート防水の上、押えコンクリート金網仕上げ
外壁 コンクリート打放し補修(B種)、複層塗材E
建具 アルミ製2次電解着色
外構 コンクリート舗装、密粒アスファルト舗装2層敷
[主な内部仕上げ]
車庫 床/コンクリート金網仕上げ、合金骨材配合強靱床仕上げ材塗 壁/コンクリート打放し補修の上、複層塗材塗 天井/フェノールフォーム複合板
執務室 床/OAフロアの上ビニル床タイル 壁/EP-G塗装 天井/岩綿吸音板
防災学習コーナー 床/ビニル床タイル 壁/EP-G塗装 天井/EP-G塗装

撮影/株式会社 名古屋支店



人見 立彦……ひとみ たつひこ
1970年京都府生まれ。1993年京都工芸繊維大学卒業、1995年同大学大学院工学科学研究科博士課程前期造形工学専攻修了、同年山下設計入社。現在、同社中部支社設計監理部アーキテクト



田村 翔……たむら しょう
1983年北海道生まれ。2006年芝浦工業大学システム工学部卒業、2008年同大学大学院建設工学修士課程修了。同年日総建、2016年山下設計入社。現在、同社建築設計部門第1設計部主管

協力会社

金属製建具工事	文化シャッター
外構工事	前田道路